

## ネット上で本人確認の実践

23期 元浦 志信

今やインターネットは日常生活に欠かせないほどに普及しました。多くのアプリやサイトがあり非常に利便性も高まりましたが、その反面、サイバー攻撃やフィッシング詐欺などのリスクからも身を守らなければなりません。その為セキュリティの強化がなされ、ネットを利用する際にも本人確認の要素も多様化されてきました。今日は様々に利用されているその一部を、実践を通して紹介します。

### ● ネットショッピング、オンラインショッピング

amazon prime、メルカリ、Yahoo ショッピング、楽天市場などの通販サイトや各メーカーのホームショッピング・サイト、JTB、阪急交通社などの旅行予約サイトなどなど **知識情報＝アカウント（ID&口座番号）＋パスワード,暗証番号** のみで本人確認が行われているケースが多い。

EX. ⇒amazon・・・[Amazon | 本, ファッション, 家電から食品まで | アマゾン](#)

EX. ⇒Yahoo ショッピング・・・[Yahoo!ショッピング - PayPayなら毎日5%! ネット通販](#)

### ● 電気・ガスなどのマイページサイト

関西電力＝はぴeみる電、大阪ガス＝マイ大阪ガス

登録設定することで毎月の使用量や使用料金を確認できるだけでなく、サイトを閲覧するだけで、ポイントも付与され、料金への転用、商品や各種ポイント（dポイント、Tポイントなど）にも交換できる特典がある。

**知識情報＝アカウント（ID&口座番号）＋パスワード,暗証番号** のみで本人確認が行われているケースが多い。

EX. ⇒関西電力のケース・・・[関西電力 個人のお客さま \(kepco.jp\)](#)

EX. ⇒大阪ガスのケース・・・[大阪ガス \(osakagas.co.jp\)](#)

### ● ネットバンキング

ほとんど全ての銀行はネットサイトを運用している。また店舗を有しないネット専用銀行（ソニー銀行、イオン銀行、大和ネクスト銀行など）はサイトのみで運営している。サイト登録して活用することで、金利の上乗せや送金手数料無料などの特典もある。

**知識情報＝アカウント（ID&口座番号）＋パスワード,暗証番号** に

**所持情報＝トークン（ワンタイム暗証番号発生器）やセキュリティーカード（個々人に送付されている乱数表のカード）を** 併用している場合がほとんど。

最近では所持情報に加えて **生体情報＝指紋認証や顔認証** を取り入れる金融機関も増えている。

EX. ⇒三井住友銀行のケース・・・[三井住友銀行 \(smbc.co.jp\)](#)

EX. ⇒三井住友信託銀行のケース・・・[三井住友信託銀行 \(smtb.jp\)](#)

● **VISA、JCBなどの信販カード会社**

利用金額、利用状況によりポイントが付与され、商品や各種ポイントに交換できる。  
利用金額、利用状況の確認をする場合がほとんどなので

**知識情報=アカウント（ID&口座番号）+パスワード,暗証番号** のみで本人確認が行われているケースが多い。

EX. ⇒三井住友カード（VISA）・・・[三井住友カード会員向けサービス「Vpass」ログイン \(smbc-card.com\)](https://smbc-card.com)

● **オンライントレード**

店舗を有している証券会社やネット専用証券会社など  
ネット運用することで、店頭対面取引に比べて取引手数料が安価になる特典もある。  
株式取引などはオンタイムで取引が可能。

**知識情報=アカウント（ID&口座番号）+パスワード,暗証番号 に  
所持情報=SMS 認証、アプリ認証などの二段階認証を組み合わせる場合が多い**

また、取引の確定時点で別途 **取引パスワード**を必要とする。

EX. ⇒大和証券・・・・・・・・・・[オンライントレード | 大和証券 \(daiwa.jp\)](https://daiwa.jp)

EX. ⇒SMB C日興証券・・・・・・・・[SMB C日興証券 \(smbcnikko.co.jp\)](https://smbcnikko.co.jp)

いずれにしても、セキュリティ強化のために多要素認証を取り入れるサイトや金融機関が増えているので個々人の管理がますます重要になってきている。